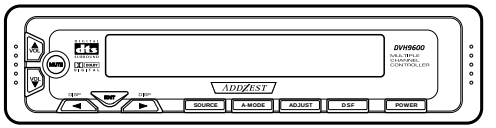
ADDZEST

マルチチャンネルプロセッサー

DVH9600

取扱説明書



このたびは、アゼスト商品をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございました。

- 安全に正しくご利用いただくため、ご使用前にこの**「取扱説明書」**をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- 保証書（別添）はお買い求めの販売店で記入いたしますので、内容をよくご確認のうえ、この取扱説明書とともに大切に保管してください。

目　次

はじめに

主な特長 3
ご使用の前に 4
安全に正しくお使いいただくために 4
安全上のご注意 5
本体のお手入れについて 6
サラウンドシステムについて 7
ドルビーデジタル(AC-3)について 7
DTS について 7
スピーカーシステムについて 7

本機の操作

■各部の名称とはたらき 8
コントロールユニット部 8
ディスプレイ部 9
■基本の操作 10
電源を入れる 10
入力ソースを切替える 10
音量を調節する 11
音を消す(ミュート) 11
ディスプレイ表示を切替える 11
DSF(Digital Sound Field)を設定する 12
各スピーカーの音量バランスを調整する
(オーディオモード) 13
■初期設定を変更する(アジャストモード) 14
アジャストモードの設定項目を選ぶ 14
音声フォーマット自動識別機能を設定する(FORMAT) 16
スピーカーの有無を設定する(SP-SEL) 16
スピーカーのフィルター周波数を設定する(FILTER) 17
スピーカーの出力レベルを調整する(SP-GAIN) 18
スピーカーのディレイ時間を調整する(DELAY) 18
ドルビーデジタルの機能を設定する(Dolby D) 19
パラメトリックイコライザーを設定する(P.EQ) 20

その他

故障と思われるまえに 22
仕様 / 製品構成 23
アフターサービスについて ..... 裏表紙

主な特長

■DTS/ドルビーデジタル/ドルビープロロジックデコーダー内蔵
- 演算処理能力に優れ、高精度、高分解能の新開発 24bit DSP LSI 搭載

■モノラルから DTS/ ドルビーデジタルの 5.1ch まであらゆるソースに対応する高品質サウンドシステムを採用
- 当社独自の DSF(デジタルサウンドフィールド)を 6 モードに厳選し、自然な音場づくりを実現
- 最適な音響特性に補正することができるフロント/リア/センタースピーカー独立調整可能な 3 バンドパラメトリックイコライザー内蔵
- スピーカーの再生能力に合わせた50/80/120Hzローパスフィルターとハイパスフィルター内蔵

■高品位 24 ビット A/D、D/A コンバータを採用
- アナログ入力には、ΔΣ型2ch48kHz24bit A/Dコンバーター採用
- D/A コンバーターには、6chをワンチップに集積した新開発エンハンスド・マルチレベルΔΣ型の48kHz24bit D/A コンバーターを搭載

■視認性の高い高輝度白 LED をバックライトに採用した液晶ディスプレイ

■ディスプレイ表示が替えられるスクリーンセーバー機能

■外部ノイズの影響を受けにくい4V/6ch RCAラインアウト

■拡張性豊かな入出力端子類を装備

ご使用の前に

安全に正しくお使いいただくために

絵表示について

この取扱説明書の表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警 告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注 意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

	△ 記号は警告・注意を促す内容があることを告げるものです。図の中などには具体的な注意内容（左図の場合は指はさまれ注意）が描かれています。
	⃠ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中などには具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	❗ 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

●安全のため、ご使用の前に「取扱説明書」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

●お読みになったあとはいつでも見られる所(グローブボックスなど)に必ず保管してください。

安全上のご注意

■使用上のご注意

⚠ 警 告

●走行中は運転者による操作をしない･･･

運転者が操作する場合は、必ず安全な場所に車を停車させてから行ってください。

●本機を分解したり、改造しない･･･

事故や火災、感電の原因となります。

●ディスプレイ部が映らない、音が出ないなどの故障状態で使用しない･･･

事故や火災、感電の原因となります。そのような場合は、必ずお買い求めの販売店または最寄りの弊社修理相談窓口に相談してください。

●万一、異物が入った、水がかかった、煙が出る、変な臭いがするなどの異常が起こったときは、ただちに使用を中止し、必ずお買い求めの販売店または最寄りの弊社修理相談窓口に相談する･･･

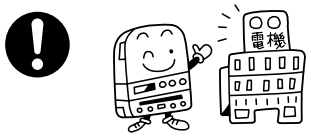
そのまま使用すると事故や火災、感電の原因となります。

●ヒューズを交換するときは、必ず規定容量のヒューズを使用する･･･

規定容量を超えるヒューズを使用すると、火災の原因となります。

●本機の取り付けおよび取り付けの変更は、安全のため、必ずお買い求めの販売店または最寄りの弊社修理相談窓口に依頼する･･･

専門技術と経験が必要です。



ご使用の前に

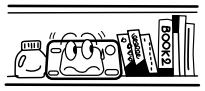
⚠注 意

●運転中の音量は、車外の音が聞こえる程度で使用する・・・

車外の音が聞こえない状態で運転すると、事故の原因となる事があります。

●本機を車載用以外には使用しない・・・

感電やケガの原因となることがあります。

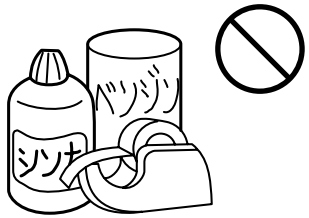


●樹脂加工部に対してベンジンやシンナーなどの溶剤を使用して清掃しない・・・

部品変形により故障して、火災などの原因となることがあります。

本体のお手入れについて

●本機をお手入れするときには、やわらかい乾いた布で軽くふいてください。汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤をやわらかい布につけて軽くふきとり、乾いた布で仕上げてください。



⚠注 意

樹脂加工部に、ベンジンやシンナーなどの溶剤を使用しないでください。部品変形により故障し、火災などの原因となることがあります。

自動車用クリーナーなどは使用しないでください。変質したり、塗料がはげる原因となります。また、ゴムやビニール製品を長時間接触させておくと、シミのつくことがあります。

サラウンドシステムについて

ドルビーデジタル(AC-3)について

ドルビーデジタル(AC-3)は最大5.1チャンネルの独立したマルチチャンネルオーディオを提供します。このシステムは、映画館にサラウンドシステムとして装備されているドルビーデジタルと同一システムです。

※ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。

「Dolby」、「Pro Logic」及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。未公開著作物。著作権1992-1997年ドルビーラボラトリーズコーポレーティド。複製不可。

DTSについて

DTS(Digital Theater System)はドルビーデジタル(AC-3)と異なるサラウンドシステムの一つです。データ量が多いので高品質のサラウンド再生ができます。

また、DTSには音楽専用DTS-CDソフトがあります。DVDビデオ同様に最大5.1チャンネルの独立したマルチチャンネルオーディオがお楽しみいただけます。

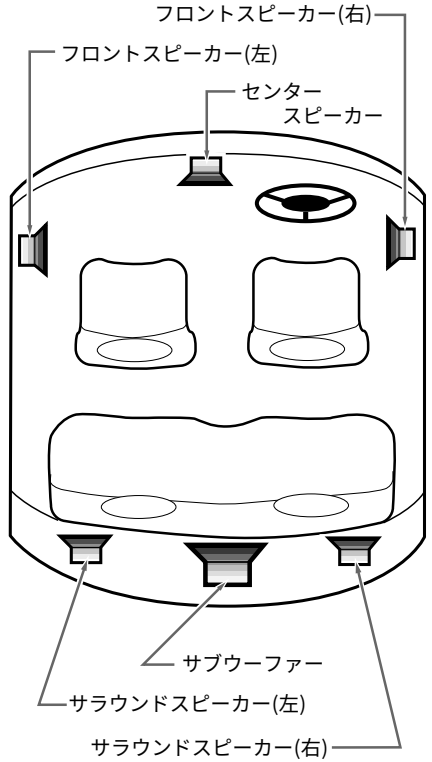
※DTSは米国Digital Theater Systems社の登録商標です。本製品は米国 Digital Theater Systems社からの実施権に基づき製造されています。

スピーカーシステムについて

ドルビーサラウンドあるいはDTSサラウンド機能を持つDVDビデオをお楽しみいただくために、以下のスピーカーシステムをお勧めします。

ただし、音楽CDではセンタースピーカー、サブウーファー用の信号が記録されていないため、フロントおよびリアスピーカーによる再生となります。

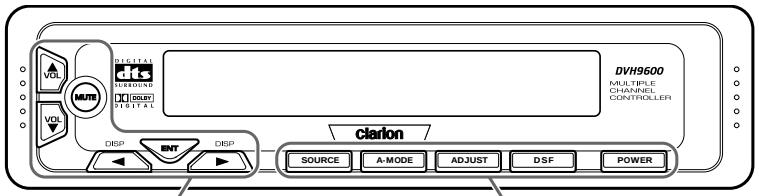
詳しくは、お買い求めの販売店にお問い合わせください。



DVDビデオの持つ音響特性をフルに発揮させるため、「設定を変更する」(16～18ページ) で出荷時の初期設定を変更してください。

各部の名称とはたらき

コントロールユニット部



音量調整ボタン
- 音量をアップ/ダウンします。
- アジャストモードやオーディオモード時に調整値切り替えます。

ミュートボタン
- 消音します。

ENTボタン
- アジャストモード時の調整モードに切り替えます。

ディスプレイボタン
- ディスプレイ表示を切り替えます。
- アジャストモード時に設定項目を切り替えます。

入力切替ボタン
- 入力ソースを切り替えます。

オーディオモードボタン
- 各スピーカーの音量バランスを調整します。

アジャストボタン
- アジャストモードに切り替えます。

DSFボタン
- DSFの設定を切り替えます。

電源ボタン
- 電源をON/OFFします。

ご注意

•本機の操作はリモコンではできません。全てコントロールユニットのボタンで行ってください。

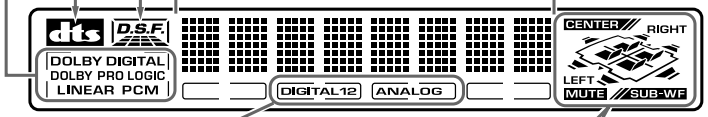
ディスプレイ部

DOLBY DIGITAL: ドルビーデジタルインジケータ
DOLBY PRO LOGIC: ドルビープロロジックインジケーター
LINEAR PCM: リニアPCMインジケーター

: DTS インジケーター

: D.S.F. インジケーター

タイトル/キャラクター表示

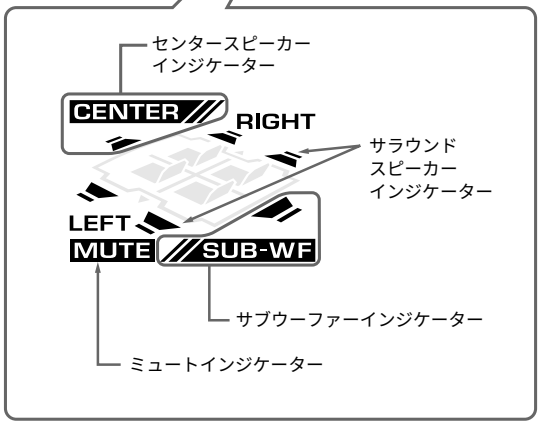


入力切替ボタンを押して、入力ソースを切り換えたときに表示します。

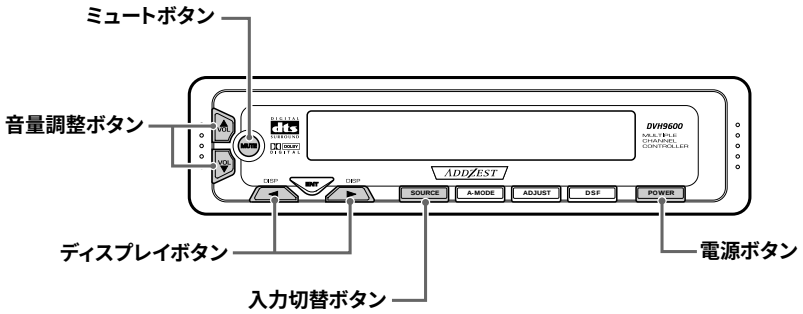
DIGITAL 1:
光デジタルケーブルで接続されたDVDナビゲーション等のデジタル信号を再生するとき

DIGITAL 2:
光デジタルケーブルで接続されたCDチェンジャー等のデジタル信号を再生するとき

ANALOG:
RCAピンケーブルで接続されたアナログ入力信号を再生するとき



基本の操作



電源を入れる

ご注意

- **車のバッテリー上がり防止のため、本機の操作はエンジンをかけた状態で行ってください。**

電源ボタンを押す

POWER

→コントロールユニット のディスプレイに設定内容を表示します。

■電源を切るときは…

電源ボタンを押してください。

入力ソースを切替える

入力ソースの切替えについて…

本機に入力される信号に応じて設定を切り替えます。

- **「DIGITAL1」**:光デジタルケーブルで接続されたＤＶＤナビゲーション等のデジタル入力を再生するとき
- **「DIGITAL2」**:光デジタルケーブルで接続されたＣＤチェンジャー等のデジタル入力を再生するとき
- **「ANALOG」**:ＲＣＡピンケーブルで結線されたアナログ入力信号を再生するとき
- **初期値は「DIGITAL1」です。**

入力切替ボタンを押す

SOURCE

→入力切替ボタンを押すたびに、次のように切り替わります。

「DIGITAL1」→「DIGITAL2」→「ANALOG 」→「DIGITAL1」→

- 7秒間ボタン操作をしなかったときは、元のモードに戻ります。

次ページに続く

ご注意

- **再生する音声フォーマットが識別される短時間の間、音が途切れる場合があります。**
- **音声を再生しているときに、ＤＶＤプレーヤー側でスキップやポーズ等の操作をすると、短時間の間ノイズが発生する場合があります。**

音量を調節する

⚠警告

DVDビデオの場合は,特に大きな音で再生されることがあります。音量はビデオ映像が表示されてから、最小から徐々にあげてください。

音量調整ボタン を押す

VOL：音量を大きくします

VOL：音量を小さくします

音を消す（ミュート）

ミュートボタン を押す

MUTE

→コントロールユニットのディスプレイに「**MUTE**」を表示します。

■元の音量に戻すには…

もう一度ミュートボタンを押してください。

ご注意

- **ナビゲーションのリモコンでは、ミュート機能が働きません。ナビゲーション等とデジタル結線したときは、本機側のミュートボタンを押してください。**

ディスプレイ表示を切替える

ディスプレイボタンを押す

DISP ◄ （または） DISP ►

→ディスプレイボタンの ◄ または ► を押すたびに、次のように切り替わります。

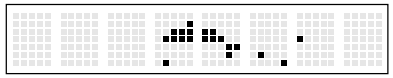
「PROGRAM 」→「SS 1」→「SS 2」→「DISP OFF」→「PROGRAM 」→…

- **PROGRAM:**

DVDビデオのサウンド方式を表示します。

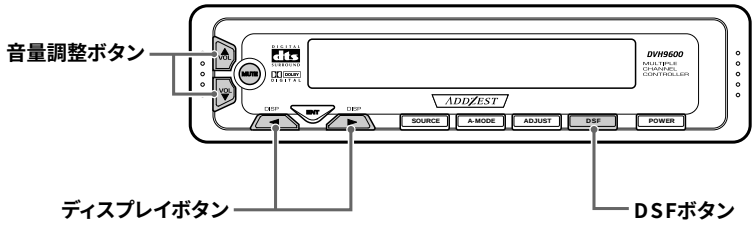
- **MONO** :モノラル音声
- **STEREO** :ステレオ音声
- **2/1** :フロント2チャンネル音声
- **2/2** :フロント2チャンネル,サラウンド2チャンネル音声
- **3/0** :フロント3チャンネル音声
- **3/1** :フロント3チャンネル,サラウンドモノラル音声
- **3/2** :フロント3チャンネル,サラウンド2チャンネル音声
- **3/2LFE** :フロント3チャンネル,サラウンド2チャンネル、サブウーファー音声

- **SS 1**:ディスプレイにイルカを表示します。



- **SS 2:** ディスプレイに「ΛDDΛEST」をスクロール表示します。

本機の操作



DSF(Digital Sound Field)を設定する

DSFについて…

DSF(Digital Sound Field)は,音場シミュレーションでホールやライブハウスなど、その場所にいるような臨場感が手軽に得られます。
リニアPCM、ドルビーデジタルまたはDTS等の全ての音楽ソースにおいて、当社独自のDSFリスニングモードをお楽しみいただけます。

- **初期値は「DSF OFF」です。**
- 音場プログラムは、聴感上最も適したものを選択してください。

1 DSFボタンを押す。

DSF

→DSFボタンを押すたびに、次のように切り替わります。

DSF OFF …音楽ソースをそのまま再生
↓
HALL(ホール) …小規模なホールのような音場
↓
CHURCH(チャーチ) …天井が高い大聖堂のような音場
↓
STADIUM(スタジアム) …広く天井や壁のない球場のような音場
↓
LIVE(ライブ) …ジャズクラブより大きめのライブハウス
↓
JAZZCLUB(ジャズクラブ) …天井が低いジャズクラブのような音場
↓
THEATER(シアター) …劇場や映画館のような音場
↓
DSF OFF

- 7秒間ボタン操作をしなかったときは、元のモードに戻ります。

2 DSFボタンを押し続けて(約2秒間)、元のモードに戻る

DSF

各スピーカーの音量バランスを調整する(オーディオモード)

音像を乗車位置や人数に合わせて調整することができます。

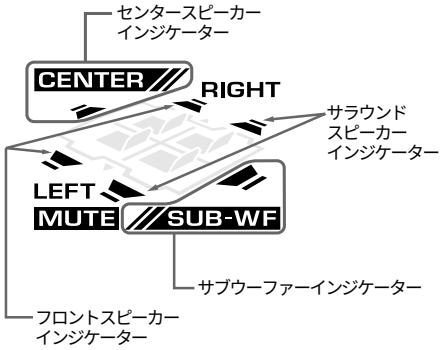
オーディオモードボタンを押す。

A-MODE

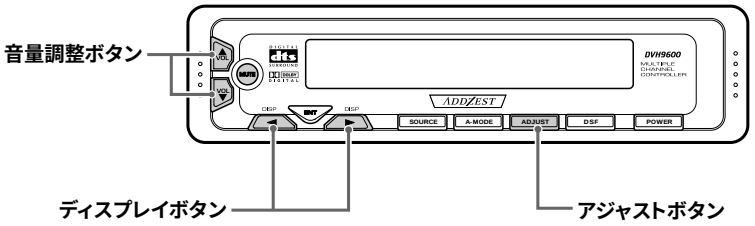
→オーディオモードボタンを押すたびに、次のように切り換わります。

「**SW** 」→「**CTR**」→「**BAL**」→「**FAD**」→元のモード

- **SW**(サブウーファー):
サブウーファーの音量を、-6から+3の範囲で、調整します。
- **CTR**(センタースピーカー):
センタースピーカー の音量を、-6から0の範囲で、調整します。
- **BAL**(バランス):
左または右スピーカーの音量を、L13からR13の範囲で、調整します。
- **FAD**(フェダー):
前方または後方スピーカー(サラウンドスピーカー)の音量を、R12からF12の範囲で、調整します。
  - ボタン操作をしなかったときは、7秒後に元のモードに戻ります。
  - 選択したスピーカーのインジケーターが点滅します。



初期設定を変更する(アジャストモード)



アジャストモードの設定項目を選ぶ

お使いになるスピーカーシステムに応じて、設定を変更してください。

1 アジャストボタンを押して、アジャストモードにする

ADJUST

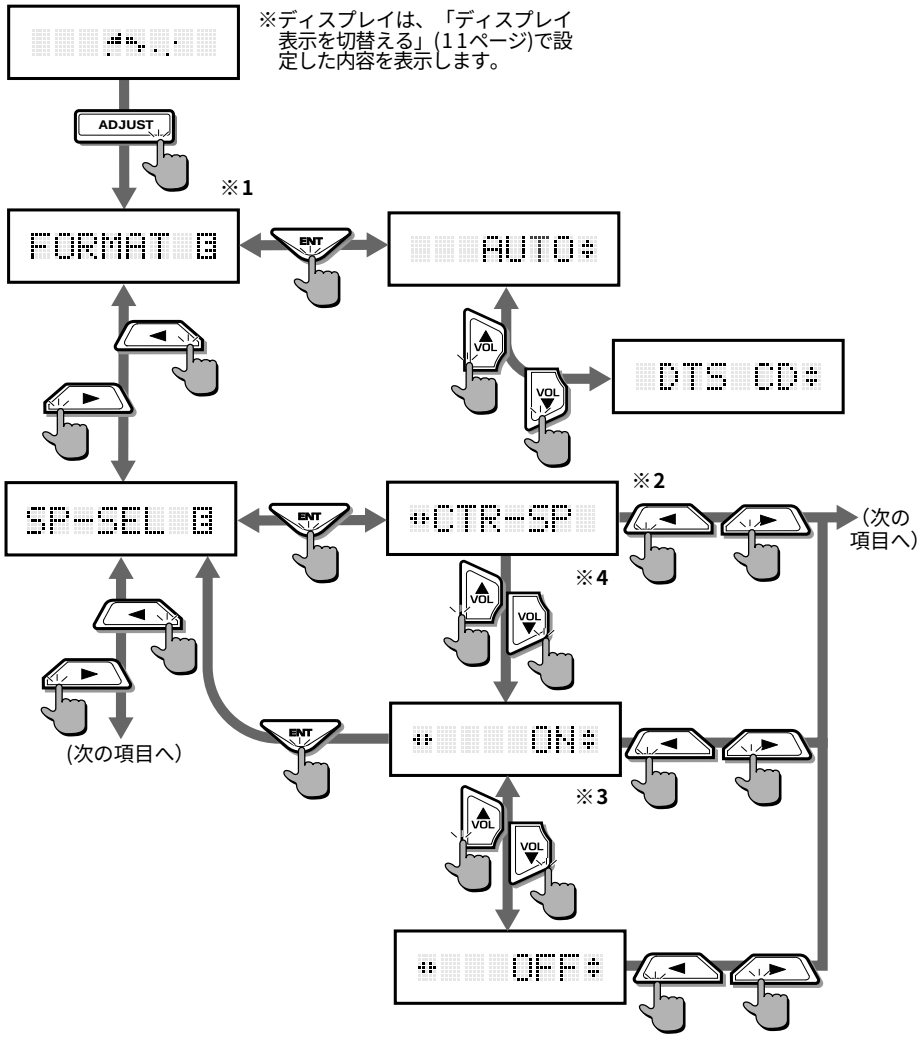
2 ディスプレイボタンの ◄ または ► を押して、設定項目を選ぶ

DISP ◄ (または) DISP ►

→ディスプレイボタンの ◄ または ► を押すたびに、右欄のように切り替わります。

- アジャストボタンを押すと、元のモードに戻ります。

- 音声フォーマット自動識別機能を設定する (**FORMAT**)
- スピーカーの有無を設定する (**SP-SEL**)
- スピーカーのフィルター周波数を設定する (**FILTER**)
- スピーカーの出力レベルを調整する (**SP-GAIN**)
- スピーカーのディレイ時間を設定する (**DELAY**)
- ドルビーデジタルの機能を設定する (**Dolby D**)
- パラメトリックイコライザーを設定する (**P.EQ**)



※1. 設定項目の末尾に E が表示されているときは、ENT ボタンを押して調整モードに切り替える。

※2. 調整値表示の左端に ▪▪ が表示されているときは、ディスプレイボタンの ◄または ► を押して、設定項目を切り替える。

※3. 調整値表示の右端に ▪▪ が表示されているときは、音量調整ボタンの ▲または ▼ を押して、調整値を切り替える。

※4. 音量調整ボタンを操作しなかったときは、1 秒後に調整値表示に切り替わります。

▌初期設定を変更する(アジャストモード)

音声フォーマット自動識別機能を設定する(FORMAT)

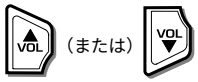
この機能は、設定を「**AUTO**」にするとデジタル入力端子に入力された信号を自動識別します。

• **初期値は「AUTO」です。**

1 アジャストボタンを押してアジャストモードにし、ディスプレイボタンの ◄ または ► を押して、「FORMAT」表示に切り替える

2 ENTボタンを押して、調整項目を表示させる

3 音量調整ボタンの ▲ または ▼ を押して、「AUTO」又は「DTS CD」を選ぶ



- **AUTO** :ドルビー方式あるいは DTS 方式のDVDビデオを自動識別させるときに選択します。
- **DTS CD** :DTS音楽CDを「**AUTO**」で再生できないときに選択します。

ご注意

•DTS対応のDVDビデオや音楽CDを「AUTO」の設定で再生すると、本機がDTS信号を識別するまでの短時間にノイズが発生する場合があります。ノイズの発生を避けるには「DTS CD」に設定してください。

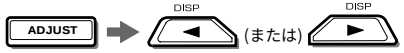
4 アジャストボタンを押して、元のモードに戻る

スピーカーの有無を設定する(SP-SEL)

本機の音響性能を最大限に発揮させるために、ご使用のスピーカーシステムにおけるセンタースピーカー、サラウンド(リア)スピーカ、サブウーファーの設置有無を設定します。

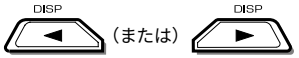
• **初期値は「ON」です。**

1 アジャストボタンを押してアジャストモードにし、ディスプレイボタンの ◄ または ► を押して、「SP-SEL」表示に切り替える



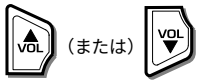
2 ENTボタンを押して、調整項目を表示させる

3 ディスプレイボタンの ◄ または ► を押して、「CTR-SP」、「SRD-SP」または「SUB-WF」を選ぶ



- **CTR-SP** :センタースピーカー
- **SRD-SP** :サラウンドスピーカー
- **SUB-WF**:サブウーファー

4 音量調整ボタンの ▲ または ▼ を押して、「ON」又は「OFF」を選ぶ



- **ON** :スピーカ設置有のとき
- **OFF** :スピーカ設置無しのとき

•サブウーファーのときは、「**ON**＋」、「**ON**－」あるいは「**OFF**」を表示します。通常は「**ON**＋」を選択しますが、聴感上「**ON**－」の方が低域の効果が感じられる場合には「**ON**－」を選択します。

次ページに続く

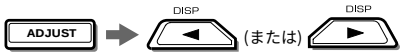
6 アジャストボタンを押して、元のモードに戻る

スピーカーのフィルター周波数を設定する(FILTER)

使用するスピーカーの周波数特性にあったフィルター周波数を設定します。

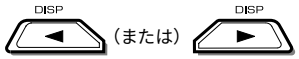
- **初期値は「THRGH」(設定無し)です。**
- 「スピーカーの有無を設定する」で「**OFF**」を選択したスピーカーは、表示しません。

1 アジャストボタンを押してアジャストモードにし、ディスプレイボタンの ◄ または ► を押して、「FILTER」表示に切り替える



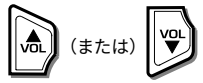
2 ENTボタンを押して、「F HPF」を表示させる

3 ディスプレイボタンの ◄ または ► を押して、調整するスピーカーを選ぶ



- **F HPF** :フロントスピーカーのハイパスフィルターを設定します。
- **CTR HPF** :センタースピーカーのハイパス周波数を設定します。
- **SRD HPF** :サラウンドスピーカーのハイパス周波数を設定します。
- **SW LPF** :サブウーファーのローパス周波数を設定します。

4 音量調整ボタンの▲または▼を押して、周波数を選ぶ



- 「**F HPF**」,「**CTR HPF**」,「**SRD HPF**」のときは、50Hz,80Hz,120HzとTHRGH(調整なし)です。

  50Hz,80Hz,120Hz:
  低音再生が不可能な小型スピーカーを使用するとき。

  THRGH:
  低音再生が可能な大型のスピーカーを使用するとき。
- 「**SW LPF**」のときは、50Hz,80Hzと120Hzです。

5 アジャストボタンを押して、元のモードに戻る

▌初期設定を変更する(アジャストモード)

スピーカーの出力レベルを調整する(SP-GAIN)

スピーカーの出力レベルは、本機に内蔵のテストトーン機能を使用して、各スピーカから出力される音量が全て同じレベルになるように調整します。

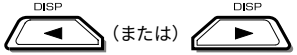
- **初期値は「0dB 」です。**
- センタースピーカーを除き、「スピーカーの有無を設定する」で「**OFF**」を選択したスピーカーは、表示しません。

1 アジャストボタンを押してアジャストモードにし、ディスプレイボタンの ◄ または ► を押して、「SP-GAIN」表示に切り替える

2 ENTボタンを押して、調整項目を表示させる

- 調整モードになると、テストトーンが前方左側のスピーカーから時計方向周りの順番で出力されます。

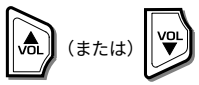
3 ディスプレイボタンの ◄ または ► を押して、調整するスピーカーを選ぶ



→ディスプレイボタンを押すたびに、次の調整項目に切り換えます。

- **FRONT-L** :前方左側の スピーカー
- **CENTER** :前方のセンタースピーカー
- **FRONT-R**:前方右側の スピーカー
- **R-SRD** :右側のサラウンドスピーカー
- **L-SRD** :左側のサラウンドスピーカー
- **SUB-WF** :サブウーファー

4 音量調整ボタンの ▲ または ▼ を押して、ゲインを調整する



- 調整範囲は－10dB～＋10dBです。
- 音量調整ボタンの ▲ または ▼ を押し続けると、早送り状態で切り替わります。

ご注意

- **出力レベルを上げすぎると、音が歪む場合があります。その時は、出力レベルを下げてご使用ください。**

5 アジャストボタンを押して、元のモードに戻る

スピーカーのディレイ時間を調整する(DELAY)

スピーカーの取付や車の大きさにより、それぞれのスピーカーからリスニング位置に届く音のタイミングが異なります。それぞれのスピーカーのディレイ時間を調整することにより、フロントスピーカーの出力と同じタイミングで聴こえるように調整します。

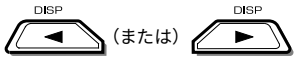
- **初期値は「0ms」です。**
- このディレイ時間は、ドルビーデジタル/ドルビーサラウンド の機能です。
- 「スピーカーの有無を設定する」で「**OFF**」を選択したスピーカーは、表示しません。

1 アジャストボタンを押してアジャストモードにし、ディスプレイボタンの ◄ または ► を押して、「DELAY」表示に切り替える

2 ENTボタンを押して、「CTR-SP」を表示させる

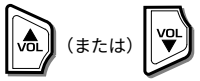
次ページに続く

3 ディスプレイボタンの ◄ または ► を押して、調整するスピーカーを選ぶ



- **CTR-SP:**センタースピーカー
- **SRD-SP:**サラウンドスピーカー

4 音量調整ボタンの ▲ または ▼ を押して、ディレイ時間を調整する



- 「**CTR-SP**」の調整範囲は、0～5msです。
- 「**SRD-SP**」の調整範囲は、0～15msです。
- 音量調整ボタンの▲または▼を押し続けると、早送り状態で切り替わります。

5 アジャストボタンを押して、元のモードに戻る

ドルビーデジタルの機能を設定する(Dolby D)

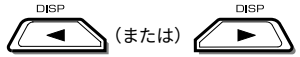
ドルビーデジタルの機能として、ドルビープロロジックON/OFF機能とダイナミックレンジコンプレッション切換機能があります。この機能はドルビーデジタル方式のＤＶＤソフトにのみ有効です。

- **ドルビープロロジック機能(Dolby PL)：**
  4チャンネル(左右フロント、センター、モノラルサウンド)の音声を2チャンネルのエンコードしたソースをドルビープロロジック処理により再び4チャンネルにデコードする方式です。
- **ダイナミックレンジコンプレッション機能(D-RANGE)：**
  ドルビーデジタルのダイナミックレンジを圧縮する機能で、映画のセリフなどの小さな音を維持して、大音量を抑制します。

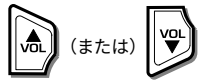
1 アジャストボタンを押してアジャストモードにし、ディスプレイボタンの ◄ または ► を押して、「Dolby D」表示に切り替える

2 ENTボタンを押して、「D-RANGE」を表示させる

3 ディスプレイボタンの ◄ または ► を押して、「D-RANGE」または「Dolby PL」を選ぶ



4 音量調整ボタンの ▲ または ▼ を押して、調整値を選ぶ



→「**D-RANGE**」のときは、「**MAX**」、「**STD**」、「**MIN**」を切り替えます。
初期値は「MAX」です。

- **MAX** :オリジナルソースそのままのダイナミックレンジ最大のモード
- **STD** :一般視聴用として推奨するモード
- **MIN** :小音量でも聴きやすい、ダイナミックレンジを最も圧縮したモード

→「**Dolby PL**」のときは、「**ON**」と「**OFF**」です。
初期値は「OFF」です。

5 アジャストボタンを押して、元のモードに戻る

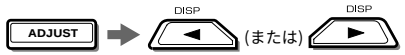
▌初期設定を変更する(アジャストモード)

パラメトリックイコライザーを設定する(P.EQ)

ご使用の車室内特性に合わせて、パラメトリックイコライザーによる周波数特性を補正することができます。

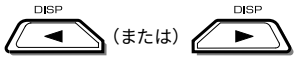
・初期値は、すべてのスピーカーで次のように設定しています。
FREQ=1KHz、Q=1、GAIN=0dB

1 アジャストボタンを押してアジャストモードにし、ディスプレイボタンの ◄ または ► を押して、「P.EQ」表示に切り替える



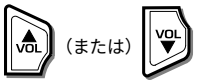
2 ENTボタンを押して、「EFFECT」を表示させる

3 ディスプレイボタンの ◄ または ► を押して、調整項目を選ぶ



- **EFFECT:** P.EQ効果のON/OFFを設定します。
- **SIGNAL:** 調整用信号を選択します。
  「**P-NOISE**」: ピンクノイズを使用するとき。
  「**MUSIC**」 : 音楽信号を使用するとき。
- **SP-SEL :** P.EQを調整するスピーカーを選択します。
  「**FRONT**」 : フロントスピーカー
  「**CENTER**」: センタースピーカー
  「**SRD**」 : サラウンドスピーカー
- **BAND :** 調整する周波数バンド(BAND1～3)を選択します。
- **FREQ :** BAND1～3における周波数を選択します。調整範囲は、20Hzから20kHzです。
  音量調整ボタンの ▲ または ▼ を押し続けると、早送り状態で切り替わります。
- **Q :** Qカーブを設定します。
  Qカーブは、数値を大きく設定すると特性曲線が鋭く、数値を小さくすると緩やかな特性曲線になります。調整範囲は、Q1からQ20です。
  音量調整ボタンの▲または▼を押し続けると、早送り状態で切り替わります。
- **GAIN :** 出力レベルを調整します。
  調整範囲は、－12dBから＋12dBです。
  音量調整ボタンの ▲ または ▼ を押し続けると、早送り状態で切り替わります。

4 音量調整ボタンの ▲ または ▼ を押して、調整値を選ぶ



5 アジャストボタンを押して、元のモードに戻る

■P.EQの調整について

ベーシックP.EQメニューを基に、ご自分の車に合わせて周波数特性を補正することができます。

● P.EQメニューの調整内容は、以下の通りです。

- チャンネルの選択(FRONT/REAR)
  補正したいチャンネル(フロント 、センター、サラウンド)を選びます。
- 中心周波数の選択(FREQUENCY)
  補正したい中心となる周波数を20Hz～20kHz範囲から選びます。
  (1/3オクターブステップ、31ポイント)
- Qカーブの選択(Q)
  Qカーブの鋭さを1、3、5、7、20のいずれかに設定します。
- ゲインの調整(GAIN)
  ゲイン(出力レベル)を－12dB～＋12dBの範囲で調整します。
  (1dBステップ、25ポイント)

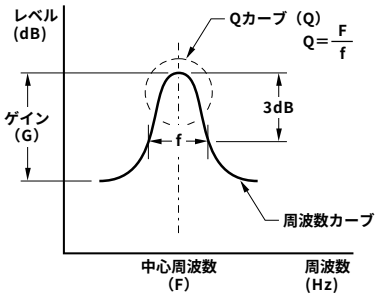
●補正について

周波数特性を測定器で測ったときに、周波数特性が平坦（周波数特性に山や谷が無い状態）であれば、補正の必要はありませんが、周波数特性が部分的に持ち上がっていたり、下がっていることがあります。このようなときに、部分的に持ち上がったり、下がったりしている部分の中心周波数に合わせて、逆の特性の周波数カーブをつくります。こうすることで周波数特性が補正され、平坦な周波数特性をつくりだすことができます。

このように、周波数特性をできるだけ平坦にすることが補正です。

・周波数特性の補正について

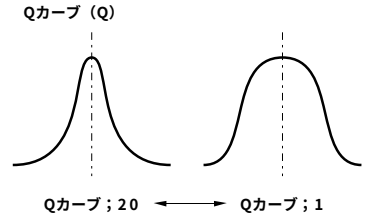
中心周波数、Qカーブ(Q)、ゲインの関係は、下図をご覧ください。



・Qカーブ(Q)について

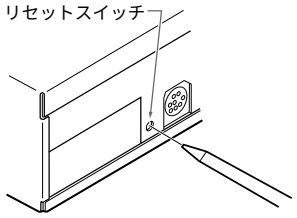
Qカーブ(Q)は、数値を大きく設定すると鋭く、数値を小さく設定すると緩やかなカーブになります。

補正したい周波数カーブと逆のQカーブ(Q)を選ぶことで、平坦な周波数特性をつくりだすことができます。



故障と思われる前に

次のような症状は、故障ではないことがあります。修理を依頼される前に、もう1度次のことをお調べください。

症　状	原　因	処置
電源が入らない/音が出ない	ヒューズが切れている	入っていたヒューズと同じ容量のヒューズと交換してください。再度切れる場合は、お買い求めの販売店、または最寄りの弊社修理相談窓口にご相談ください。
	配線が不完全	お買い求めの販売店、または最寄りの弊社修理相談窓口にご相談ください。
	ノイズなどが原因で、マイコンが誤動作している	DVDデッキのリセットスイッチを細い棒などで押してください。  リセットスイッチを押すとメモリーしたタイトル等が全て消去されます。
ボタンを押しても動作しない、ディスプレイが正確に表示しない		

仕様/製品構成

仕　様

S/N	（デジタル入力）	:100dB EIAJ
	（アナログ入力）	:90dB EIAJ
周波数特性		:20Hz～20kHz(±1dB)
セパレーション	（デジタル入力）	:90dB
	（アナログ入力）	:80dB
高調波歪率		:0.01%
アナログ出力		:4Vrms(Vol MAX)
アナログ入力		:2.0Vrms(MAX)RCA
DSF		:6パターン
P.EQ		:3バンド×3(FRONT/REAR/ CENTER)
	fc	:20Hz～20kHz 1/3オクターブステップ(31ポイント)
	Qカーブ	:1～20(5ポイント)
	GAIN	:±12dB
ディレイ時間		:ドルビーデジタル　センター　0～5msec
		:サラウンドL/R　リア　0～15msec
電源電圧		:DC14.4V(10.8V～15.6V)マイナス接地
消費電流		:480mA
外形寸法		:178(W)×50(H)×172.7(D)mm
質量		:950g

製品構成

本体(DVH9600) 1
コントロールユニット 1
取扱説明書 1
取付説明書 1
修理相談窓口リスト 1
保証書 1
RCAピンケーブル(5m×2ch) 2
デジタル光ファイバーケーブル(5m) 1
コントロールユニット用コード(5m) 1
電源コード(5m) 1
コードクランプ 2
マジックテープ(大) 2
マジックテープ(中) 2
マジックテープ(小) 2
コードホルダー 2

アフターサービスについて

■保証書

この商品には、保証書が添付されています。お買い求めの際、販売店で所定事項を記入いたしますので、記入および記載事項をご確認のうえ、大切に保管してください。なお、保証書は再発行いたしませんので、ご注意ください。

■保証期間

お買い求めの日より1年間です。

■万一故障が発生した場合

保証期間中に、正常な使用状態で故障が発生した場合には、保証の記載内容に基づいて、無料で修理いたします。
お買い求めの販売店、または最寄りの弊社修理相談窓口にご相談ください。

■保証期間経過後の修理について

修理することにより性能が維持できる場合には、お客様のご要望により、有料で修理いたします。

クラリオン株式会社

本　　社　〒112-0001　東京都文京区白山5-35-2
TEL. 0120-112-140 (フリーダイヤル)
お問い合わせは、お客様相談室へ

ご購入年月日	年　　月　　日
ご購入店名	
	TEL.
製 造 番 号	

お客様へ…… ご購入年月日、ご購入店名などを記入されると、あとでお問い合わせされるときに便利です。

Printed in Japan　2000/9（CL.K）　GP-975A　280-7504-00